

社会主義思想

今回学ぶこと

社会主義思想がどのような時代の状況から生まれたのか学習する。そして、20世紀の世界に大きな影響を与えたマルクスの社会主義思想について理解し、労働者の解放ということについて考える。さらに、マルクスの革命論を否定した、マルクス以後の社会主義について学び、社会主義思想の現代的意義について考える。



講師
小林和久

今回のキーワード!

社会主義 / 空想的社会主義 / マルクス /
エンゲルス / 唯物史観 / 社会民主主義

社会主義思想の形成

社会主義思想とは、資本主義社会を根本から変えて、財産を社会全体の所有にして、社会全体のために財産や生産を管理する社会をつくり、不平等の克服をめざす思想である。

19世紀のヨーロッパでは、産業革命が進展し、資本主義社会が確立されていくが、労働者の貧困や失業、長時間労働や劣悪な労働環境などの社会問題が深刻になり、資本家と労働者の対立も激しくなった。そのような時代の状況を背景に、イギリスのオーウェンや、フランスのサン・シモン、フーリエなどが人道的な立場から理想の社会を考えた。

しかし、彼らの思想はマルクスとエンゲルスによって、現実の資本主義社会を科学的に分析しておらず、労働者自身の力で理想の社会を実現するには現実的ではないとして、「空想的社会主義」と呼ばれた。

マルクスの思想

ドイツの哲学者・経済学者であるマルクスは、労働者の解放のために、資本主義社会を根本から変えて、社会主義社会に移行する必要がある、それは「唯物史観」という考え方に基づいて実現されると考えた。

この思想によれば、人間の社会は、生産力と生産関係（生産における人間関係）を土台にして、その上に法律や政治、道徳などが上部構造として作られている。だが、生産力は上昇していくのに対して、生産関係は固定化される傾向があるので、両者はやがて矛盾し、階級の争いを生み、生産関係の変革をもたらす。こうして資本主義から社会主義へと移行したときに、労働者の真の解放は実現される。マルクスによれば、このような社会の変革は歴史の必然であり、それを行うのが労働者の使命だと考えられた。

社会主義思想の展開

マルクスと彼の盟友エンゲルスの思想は、世界に大きな影響を与えた。彼らの思想を受け継いだロシアのレーニンによって、世界初の社会主義の国、ソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）が建設され、その後も東ヨーロッパなどで社会主義の国が次々に生まれた。

しかし、これらの国々では経済の行き詰まりなどによって、1980年代の末から変革が相次ぎ、ソ連自体も1991年に解体した。現在では、社会主義と言われる国々でも、市場経済を導入している国が多数存在している。

マルクスの革命論を否定し、議会活動によって社会保障の充実や労働者の生活改善を目指すイギリスのフェビアン協会や、ドイツのベルンシュタインによる社会民主主義の考え方など、すでに19世紀末ごろからマルクス主義を批判する思想も生まれていた。

現在では、資本主義の国々でも、福祉国家を目指して社会保障を充実させようとするなど、不平等の克服に向けての努力が続けられている。

Kobayashi ...コラム

浪費家マルクスを救ったのは

20世紀の世界に大きな影響を与えたマルクスですが、一人の人間としてみると、人づきあいは上手くなく、お金の管理も苦手だったそうです。

彼の父親は弁護士で裕福だったそうですが、マルクス自身は大学生のころから金遣いが荒く、それを嘆いた父親の手紙が残っています。「どんなお金持ちの子どもでも1年に500ターレル（ターラーともいう。当時の通貨単位）も使わないのに、おまえは700ターレルでもまだ足りないというのか…」という内容です。当時のベルリン市会議員の年棒が800ターレルだったそうですから、かなりの浪費家だったようです。

父親の死後は多額の遺産を相続したものの、定職もなく図書館にこもって勉強・研究の日々……。それでも浪費癖は直らず生活に困ることになってしまいます。そんなマルクスを助けたのが友人エンゲルス。やはり「持つべきものは友」なのでしょう。